

(23) 美術

1 設置科目

(カッコ内は標準単位数) ※原則履修科目

美術概論 (2～4) ※	絵画 (2～16)	情報メディアデザイン (2～12)
美術史 (2～6) ※	版画 (2～16)	映像表現 (2～12)
鑑賞研究 (2～8) ※	彫刻 (2～16)	環境造形 (2～16)
素描 (2～10) ※	ビジュアルデザイン (2～12)	
構成 (2～10) ※	クラフトデザイン (2～12)	

美術科における原則履修科目は5科目

2 教科の目標

美術に関する専門的な学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、美術や美術文化と創造的に関わる資質・能力を育成することをめざす。

⇒ ここがポイント!

- 造形的な見方・考え方を働かせて学習活動に取り組むよう示される。
- 専門学科として「創造的に関わる資質・能力」の育成、作り手の育成が示される。

3 各科目の内容 (主な変更点等)

美術概論	専門教科美術を学ぶ基盤としての科目と位置付ける。 〔指導項目〕が改編されており、中でも知的財産権と肖像権をしっかりと扱う。 〔指導項目〕(1)～(3)は必履修とする。それぞれを関連付けて指導する。
鑑賞研究	専門教科美術を学ぶ基盤としての科目と位置付ける。 〔指導項目〕が改編されている。〔指導項目〕の(4)は必履修、(1)～(3)は選択とする。
ビジュアルデザイン	〔指導項目〕の「(1)デザインの基礎」「(2)平面・立体デザイン」を、「(1)ビジュアルデザインの基礎」「(2)伝達目的に応じたデザイン」に改編する。
クラフトデザイン	〔指導項目〕の「(1)デザインの基礎」を、「(1)クラフトデザインの基礎」に改編する。
環境造形	〔指導項目〕「環境」と「造形」という視点で改編し、(3)までに収まらない物を「(4)その他」の環境造形とした。

4 小・中学校での内容

小学校図画工作科及び中学校美術科では、生活を豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深め、生活や社会と豊かに関わる態度を育成することについて、更なる充実が求められている。

- 「A 表現」と「B 鑑賞」を相互に関連させた学習の充実
- 自分の見方や感じ方を深める鑑賞学習の充実
- 〔共通事項〕の知識を、「生きて働く知識」として習得

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業の創造

「何ができるようになるか」～美術科において育成をめざす資質・能力～

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 美術に関する専門的で幅広く多様な内容についての理解 一人ひとりの個性を生かしたり独自の持ち味を大切にしたりして、独創的・創造的に表す技能
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 美術について多角的に捉え、表現及び鑑賞の学習の中で思いや考えを基に創造する力 課題を見だし自分の考えを形成し伝え合ったり、他者と協働しながら解決したりする力 美術に関する専門的な知識及び技能を活用し、総合的に働かせること 発想や構想に関する資質・能力と、鑑賞の活動を通して育成する造形的な見方や感じ方
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に美術に関する専門的な学習に取り組み、造形的な見方・考え方を働かせて、様々な対象やよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性を磨くこと 芸術文化の発展に常に関心をもち、日本及び諸外国の美術を学び、美術文化の継承、発展、創造に寄与する態度

「何を学ぶか」～美術科において重視する学習内容・学習活動～

○ 表現と鑑賞を関連させた学習

造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞の学習の関連を図るなどして、美術に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようにしたり、創造的な思考力、判断力、表現力等を育成したりする過程を大切に指導の充実を図ることが重要。

○ 知的財産権と肖像権

創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、美術に関する知的財産権や肖像権などについて配慮し、自己や他者の著作物等を尊重する態度の形成を図るようにすることが必要。また、こうした態度の形成が、美術文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮すること。

「どのように学ぶか」～主体的・対話的で深い学びの実現をめざして～

「深い学び」の実現にむけては、習得・活用・探究という学びの過程の中で「造形的な見方・考え方」を働かせることが重要。授業の中で、「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させ、教科の特質を理解するとともに、創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりする過程を大切にすることが必要。

造形的な見方・考え方とは、感性や美意識、創造力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値を作り出すこと。

授業改善を考える際に、造形的な見方・考え方が働く授業を考えることが必要。

